

『63・3ダイ改強行も弾効する』

速報

勤労千葉青年部110名、運行部抗議デモに決起
当局・国家権力の弾圧ぶち破り市内デモを貫徹(3/11)

前代未聞の暴挙を許すな！

JR東日本とJR貨物会社当局は、三月十三日「六三・三ダイ改」をわれわれの再三の団交申し入れ、改善要求を拒否し、一方的に強行実施した。われわれは激しい怒りをこめて前代未聞のこの暴挙を弾効する。

弾効の理由の第一は、二千十三本の列車増発にもかかわらず、全国で六千人の人員削減を強行するものであり、加えて多能工化、兼掌化と称し、労働強化、労働密度を一挙に高め、運転保安・作業安全の危機を極限にまで高めるものである。

そして、何よりも当局と革マル・鉄道労連は「六三・三」を突破口に新たな大量首切り、強制出向攻撃を強め、JR東日本六万人体制づくりへと踏みこもうとしているのである。

当局は「二〇三分で食事はできる」(車務課長)などという暴言にもはつきり表わされているように、彼らはわれわれ労働者を人間として扱おうとしていないのだ。

もはや、カン忍袋の緒は切れた！意を決して反動JR弾効、ファシスト革マル・鉄道労連解体・一掃へと総力で立ちあがろう。

われわれはキッパリと宣言する。「六三・三ダイ改」にともなう一切の問題の責任は当局の強行実施によるものである。今後あらゆる機会をとらえ労働条件の改善、運転保安の確立のためにたたかう。

弾効の第二は、革マル松崎一派が前面にたって推進している「ダイ改」キャンペーン運動は、労働者の権利と生活、乗客の安全を切りすて「企業防衛主義」(会社あつての労働者とか会社の発展)労働者の向上等のベテンの資本の論理)を大々的におし出し、勤労千葉や国労を「不必要なもの」と新たな組織破壊にのりだしている。

われわれのとるべき態度は、革マル・鉄道労連の企業防衛主義と対決し、分割・民営化反対のためたかう体制をより一層うち固めることにある。革マル松崎に対する憎悪と不信は全職場に満ちている。「六三・三ダイ改」強行は激しい怒りの炎に油を注いだのだ。



1988.3.14 No. 2776

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)〇四七二(22)七二〇七

327三里塚人 全力総出で 10時成田人!

新たな首切り・合理化攻撃に対しこれをはね返す根源的力こそ、労農連帯の堅持と革マル・鉄道労連解体・一掃の闘いへの決起である。
解雇者・清算事業団の仲間たちをがっちり包みこみ、「四・一體制」打破、春季闘争貫徹、新たな地平を切りひらくため全力で闘いぬこう。
定期委員会決定の当面の二大課題、三・二七三里塚全国集会、四・九国鉄集会の圧倒的成功をテコに反撃体制をがっちり築きあげよう。

反撃へ！ 三・二七三里塚
四・九国鉄集会へ全力結集を！